

## 学校教育目標



夢 に向かっていく生徒  
命 を大切にする生徒  
絆 を互いに深め合う生徒

# 須和田が丘

令和6年度  
学校だより No. 6  
令和6年6月20日

市川市立第二中学校  
校長 杉山 哲

ホームページ <http://www.dai2-tyu.ichikawa-school.ed.jp/>

## 生徒主体で生徒が輝く体育祭

6月6日(木)、薄曇りで気温はそれほど高くなく、雨の心配はない…体育祭には最適の天候。朝早くからグラウンド整備、テント設営、机や椅子の設置、用具の準備、ライン引き等々…たくさんの生徒が一生懸命力を合わせて準備を整え、いよいよ楽しみにしていた体育祭のスタートです。

今年度のスローガンは「**なんでそんなに強いんですか?~二中をフォローしているから~**」です。開会式の校長挨拶では『二中の仲間がいてくれれば最強になれる』という、体育祭にかける思いと、仲間との絆の大切さがこもった、いいスローガンだと思います。『絆』を意識し、熱く全力を出し切って最高の一日にしましょう』という旨の話をしたのですが、前日までの準備も含め、「自分たちの手で最高の体育祭にする!」という生徒たちの熱い思いを、いろいろな場面で感じる体育祭でした。

まず、練習や準備・進行の中心となった体育委員をはじめ、息つく暇もない用具の準備、確実に厳正な審判、臨場感たっぷりの放送、得点の集計と演出を凝らした発表、招集、ライン、救護…各係がそれぞれの仕事に使命感を持って主体的に取り組んでいた様子がとても印象に残りました。

順位にかかわらず力を出し切り晴れやかな表情でゴールを駆け抜けていた個人種目、各学年とも楽しながらもなかなか難しく、何度も練習してきた成果を発揮した団体種目、大迫力で見ているほうも大興奮の棒引き&綱引き、懸命にバトンを繋ぎ、抜きつ抜かれつたくさんのドラマがあった学級対抗リレー、そして会場全体が最高に熱く盛り上がった紅白リレー…競技者としての姿もみな輝いていました。

体育館前に堂々と掲げられたスローガンを染め抜いた「横断幕」は美術部の作品…今年度も迫力満点でした。応援席を彩る「学級旗」…みんなで時間と手間をかけ、思いを込めて作ったクラスのシンボルは、どれもみな素晴らしい出来でした。日々の練習の成果が詰まった迫力の応援と工夫を凝らしたパフォーマンスを披露し、全校生徒の心をつかみ、大いに士気を高めた応援団の活躍も見事でした。紅白の応援団長、体育委員長の閉会式での気持ちのこもった言葉も皆の心に響きました。

他にも「二中の生徒はすごいな」と感じる事がたくさんありました。どの生徒もトップを争っているときも、大きく差をつけられているときも変わらず最後まで全力を尽くして競技に取り組んでいました。順位が良ければもちろん大喜びしますが、結果にかかわらず頑張りきったこと自体に満足し、いい表情で笑い合っていました。競技後にルールに照らして順位の降格が発表されても、審判係の判定に不満や落胆の態度を見せることなく、素直に受け入れていました。どれも当たり前のことかもしれませんが、なかなかできないことだと思います。そして何より、自分が出ていない競技を応援するときの本気度、全校が一つになった盛り上がり、二中生の真っ直ぐな心と大きなエネルギーを感じました。

今年度、平日開催にしたことで、部活の試合等との兼ね合いを心配することなく、みんな揃って心置きなく体育祭を楽しんでいる姿を見て、思った以上に生徒にとって大きなことであつたと感じています。平日開催にご理解いただき、その上で大変多くの保護者の皆様にご参観いただきましたこと、あらためて感謝申し上げます。また、自転車整備、広報など様々な形でご協力いただいた保護者・地域の皆様、ご来賓としてお越しいただいた皆様、ご理解・ご協力、本当にありがとうございました。

自分たちで作り上げ、たくさんの「感動」と「達成感」、そして「仲間との絆」が得られた、とても良い体育祭になりました。これからの学校生活に繋げ、「生徒主体の体育祭」を、来年度以降も大切にしてもらえたらと思います。



体育祭の全競技の様子を、二中ブログ(HP)に掲載しています。ぜひチェックしてみてください!

